

# 令和6年度 丸内中学校校内研究

## 1 研究主題

学ぶ楽しさを実感し、主体的に表現できる生徒の育成

～「聴き合う」「伝え合う」活動を大切にした授業づくりを目指して～

## 2 経緯と主題設定の理由

本校は、令和2年度から4年度の3年間で「聴くこと」、令和5年度では、この3年間の学校研究を土台として、「聴き合うこと」「伝え合うこと」を大切にしながら、主体的に表現できる生徒の育成を目指して、様々な取組を行いながら、学校研究を進めてきた。

中でも、生徒に学習のゴールまでの見通しを持たせ、学習への目的意識や必要性を持たせる「単元見通し学習」については、継続して行ってきたこともあり、各教科で多くの実践事例をデータとして残すことに成功した。そして、単元見通し学習に楽しさを見いだしている生徒や、次の単元に向けての取り組み方を考えている生徒がいるなど、この取組に意欲的な様子をうかがうことができ、学校研究の柱として定着しつつある。それに加え、昨年度は単元見通し学習の中に、「ICTを活用する場面と方法」と位置付けて取り組んだことで、教師がどの授業でICTを活用した授業展開が可能かを、単元に入る前に考えるようになり、教師のICTの使用に関する意識が向上した。また、ICTを用いて意見交流させることで、自分の口では語れない生徒も、周りの意見とつながることができるなどのメリットも感じるようになってきた。

上記のような成果が見られる一方で、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を比較して聴いた上で自分の考えを持つことや、自分の考えが伝わるように根拠をもとに工夫して発表したりすることにおいては課題が残る。全体的に授業に対しては前向きに取り組めてはいるものの、周りの生徒と比較することで、自分の現状に自信を持っていない生徒が多いことがその要因として考えられる。生徒に自信を持たせるためにも、まずは教師が生徒の頑張りを細かく見取り、適宜声掛けをし価値付けを行ったり、生徒が自分ごととして課題を捉えられるようになるために、生徒同士で協働できるような場を設定したりするなど、教師側の工夫も必要である。

以上のことを踏まえて、今年度も、昨年度と同じ研究主題のもと、生徒が学習活動の中で楽しさを見だし、聴き合い、伝え合うことを大切にしながら授業に臨むことができるようにしていきたい。また、授業づくりの視点として下記の3点を設定して取組を進めていくことにした。

### 【授業づくりの視点】

#### ①主体的に学びたくなるような授業

- ・単元見通し学習を軸とした授業づくりを計画し、実施する
- ・学ぶ楽しさを見いだすための課題を設定する
- ・ICTを効果的に用いた授業づくりを行う

#### ②「聴き合い」「伝え合い」がしたくなるような授業

- ・丸中学びの心構えに基づき、「聴き合う」「伝え合う」姿勢を定着させる
- ・状況、場面に応じてペアやグループ形式での学び合いの場を設定する
- ・授業をコーディネートしながら生徒のつまづきを見取る

#### ③自己の学習を振り返り、学びを実感できる授業

- ・単元等のまとめりを見通した指導を計画し、次時につなげる
- ・学習したことを用いて振り返りを行うことで、学びの自覚化を促す

### 3 研究方針

#### (1) A 授業改革チーム

- ・丸中スタイルの確立
  - 丸内中授業づくりの視点に沿った50分の持ち方の再考
  - コーディネートの方の検討（発問等）
    - ・ペア・グループ活動の充実
- ・単元を見通した授業づくり（単元見通し学習）の工夫
- ・ICTを効果的に用いた授業づくりの工夫
- ・各教科の視点に応じた振り返りシートの実施について
- ・生徒アンケートの分析と対策
- ・スキルタイムの実施について
- ・授業オリエンテーションの実施（Bチームと連携）
- ・「丸中学びの心構え」を意識した授業づくりの工夫
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けての取組

#### (2) B 集団育成チーム

- ・丸中学びの心構えの再考
  - 「聴く」「考える」「伝える」姿勢の定着
- ・授業オリエンテーションの実施（Aチームと連携）
- ・生徒会やリーダー会との連携
- ・道徳・特別活動等との連携

#### (3) C 学力向上推進チーム

- ・家庭学習指導の工夫
  - 自学ノートの質の向上のための取組、家庭学習の定着に向けた取組、テスト勉強指導の充実
- ・学習アンケートの提案・実施・分析（PDCAサイクル）
- ・定期テスト、学力調査等の分析
- ・朝学習（Qubena）の取組
- ・終礼前学習の取組

### 5 研究組織

教職員全員が協力体制のもと、研究を推進する。

